新日本空調 CSRレポート2009

SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CSR Report 2009



空気・信頼そして未来、 見えないものを大切にします。



■企業理念

新日本空調株式会社(以下「新日本空調」と称す)は、2008年1月 に「企業理念」を制定しました。

- 1. 空気・水・熱に関する技術の研究と開発を通して、 地球環境に配慮した環境設備企業であり続けます。
- 2. 顧客・株主・職員・協力会社をはじめ、 すべての人々との信頼関係を大切にします。
- 3. 「良き企業市民」として、社会の発展に貢献します。
- 4. 公正、透明、自由な競争を基本に、開かれた企業活動を行います。

■経営基本方針

新日本空調グループは、

「豊かな環境の創造」「人々との信頼関係の尊重」「社会への貢献」を 経営の基本として掲げ、活動しています。

■企業行動憲章

新日本空調グループは、ステークホルダー(顧客・株主・職員・協力 会社等) に対するCSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会 的責任)への取り組み姿勢を明確に打ち出し、以下のとおり企業行 動憲章を制定しています。



- 1 空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、 環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される技術とサービスを提供します。
- 2 公正、透明、自由な競争を基本に、開かれた企業づくりに努めます。
- 3 株主はもとより、社会とのコミュニケーションを緊密に行い、 積極的かつ公正な企業経営を目指します。
- 4 環境に調和する技術の研究・開発を通して、地球規模の環境保全に貢献します。
- 5 「良き企業市民」として、社会貢献活動を行います。
- 6 労使相互信頼を基本に、職員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、 安全で働きやすい環境を確保し、希望に溢れた企業風土を創ります。
- 7 反社会的勢力との関係遮断を断固たる決意で臨み、 順法意識の確立と健全な企業風土を醸成します。
- 8 海外においては、国際ルールや現地の法律順守はもとより、 その文化や慣習を尊重し、その発展に貢献します。
- 9 本行動憲章の役割を深く認識し、関係者に周知、徹底するとともに、 当社グループ内の取り組み体制を整備し、企業倫理の徹底を図ります。
- 10緊急事態発生時の社内即応体制を確立するとともに、 社内外への迅速な情報公開と説明責任を明確にします。

■ 会 社 概 要

1969年10月1日

本 社 資 本 金 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル 51億5.860万円(2009年3月31日現在)

空気調和、冷暖房、換気、環境保全、温湿度調整、除塵、除菌、給排水、 衛生設備、電気設備等の設計、監理ならびに工事請負

従業員数 869名 (2009年3月31日現在)

主な事業所 1.国 内

> 都市施設・リニューアル事業本部、都市施設事業部、リニューアル事業部、 産業施設事業本部、原子力事業部、海外事業部、北海道支店、東北支店、 関東支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、中国支店、九州支店、

技術開発研究所

2. 海 外

スリランカ、シンガポール、UAE、ミャンマー、インドネシア

連結子会社

新日空サービス株式会社、新日本空調工程(上海)有限公司

SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED

株式の状況

発行可能な株式総数 84,252,100株 発行済み株式の総数 25,282,225株 株主数 6,308名 (2009年3月31日現在)

■編集方針

本レポートは、新日本空調グループにおけるCSR活動の取り組み 状況について、ステークホルダーに対する説明責任を果たすことを 主目的として、CSRに対する新日本空調の考え方、2008年度の取り 組み、実績等をCSR委員会にて企画・編集したものです。

本レポートが、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション 促進の一助となることを願っております。

本レポートの対象範囲

1. 対象期間

本レポートに掲載の活動内容、データ集計の対象期間は2008年度(2008年 4月1日~2009年3月31日)ですが、一部2009年度の内容も含みます。

新日本空調の国内事業所、ならびに子会社の新日空サービス株式会社、 新日本空調工程(上海)有限公司におけるCSR活動を対象としています。

新日本空調の企業活動を支えていただいているステークホルダー(顧客、株主、 職員、協力会社等)の皆様、特に株主・投資家および取引先企業の皆様への 報告に力点を置いています。

参考にしたガイドライン

「環境報告書ガイドライン」(環境省 2007年版) 「環境会計ガイドライン」 (環境省 2005年版) GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン 2006

お問い合わせ先

新日本空調株式会社 経営企画本部

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル TEL: 03-3639-2701 FAX: 03-3639-2734

*新日本空調の企業情報につきましては、ホームページ(http://www.snk.co.jp)をご覧ください。 *アンケート用紙を添付しています。次回レポート作成時の参考とさせていただきますので、 本レポートについて皆様の率直なご意見、アドバイスをお寄せくださいますようお願い申し上げます。

次回発行予定 次回は2010年9月の発行を予定しています。

Contants

o o n t e n t s	
企業理念、経営基本方針、企業行動憲章-	-02
会社概要、編集方針、目次———	-03
トップコミットメント	-04-05
基本姿勢と透明性	
コーポレート・ガバナンス―――	-06-07
コンプライアンス	-07-08
財務報告に係わる 内部統制の確立と本格運用―――	-09
親しみやすい空調の解説	
身近な空調のはなし ――――	-10-11
安全・品質・環境マネジメント	
マネジメントシステムの概要	- 12-13
安全活動—————	-14
品質活動————	-15
環境活動————	- 16-17
環境技術紹介————	- 18-19
環境配慮型物件の施工実績 ――	-20-21
ステークホルダーとの対話	
コミュニケーション	-22-23

1 4=	#II 	1 ++	* +	助什田田	122	040	_
作:	刑浸:	ΛM	可	·職場環	リカーニー	24-2	h.

-26-29

社会貢献活動

社会貢献活動-

人権尊重·人材育成

海外現地法人の紹介	3	80
第三者所感———	3	31



はじめに

昭和5年(西暦1930年)に当社の前身である東洋キャリア工業が誕生しましたが、満州鉄道特急アジア号での"世界初"全列車空調や、"日本初"の原子炉空調を手掛ける等、数々の偉業を残してまいりました。このチャレンジ精神は、当社設立40周年を迎える現在もしっかりと受け継がれています。

透明性の高い企業活動を展開し、「環境設備企業」への変革を

さらに推進します。

代表取締役社長 岡本隆裕

今年10月で40周年を迎える当社は、 その前身である「東洋キヤリア工業」から受け継いだ高い技術力と、 常に新しいものに取り組むパイオニア精神を糧に、 「新日空 Target Plan 2010」の2年目も CSR活動をさらに深化させ、 透明性の高い企業活動を展開することにより、

当社企業価値の向上を図ってまいります。

空調の草分け企業として当社を支えるものは、やはり技術です。2020年におけるわが国の地球温暖化ガスの削減目標(対2005年比)マイナス15%が必達課題である今日、環境・省エネ技術に磨きをかけ、コスト削減・製品歩留まり改善等、顧客の抱える課題に対する的確なソリューションをいち早く提供することが益々必要とされています。

今後当社は、透明性の高い企業活動とともに、企業 理念である「空気を中核とする熱・水技術の研究と開 発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社 会的に信頼される企業の実現」を目指します。

2009年度 事業計画達成に向けて

「新日空 Target Plan 2010」の2年目にあたる2009年度は、基本課題である「環境設備企業への変革」をさらに推し進め、顧客や社会の要請に応えるとともに、新たな収益源を創出し、現行事業領域における得意分野の強化と深化を図ることによって、収益源の多様化を図る所存です。

ステークホルダーの皆様におかれましては、 今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願 い申し上げます。

定量面では、受注工事高、完成工事高とも に900億円、営業利益、経常利益ともに20億 円、当期利益は10億円の達成を目指します。

尚、最終年度である2010年度の達成目標である当期利益15億円、ROE5%については当初目標通りです。

株主の皆様には、安定的かつ継続的に成果の還元を行うことを経営の重要課題としていることから、利益配当については年間15円を基本に業績に応じた特別配当を実施していく方針です。

中期経営計画 「新日空 Target Plan 2010」 (2008~2010年度)

●キーワード「環境設備企業への変革」

当社企業理念である「空気を中核とする熱・水技術の研究・開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される企業 | の実現を目指す

■目標 利益重視の徹底 = ROE 5%

『受注/完工 1.000億円にはこだわらないが、ROE 5%にはこだわる』

- ●基本課題と 2009 年度事業計画達成に向けた具体的施策
- 1.現行事業領域の強化
- ① リニューアル分野のさらなる拡大 ② 産業分野における成長業種への取り組み拡大
- ③原子力分野のさらなる拡大
- ④ 海外分野におけるリスク対応と選別受注の徹底
- ⑤ 連結子会社との連結経営促進
- 2. 収益源の多様化(独自性と総合力発揮)
- ① 微粒子可視化技術の更なる進化と協業の推進 ② 技術の差別化を実現するための 独自技術の事業化・実用化の推進



- ① 財務報告の信頼性確保のみならず、 業務の有効性・効率性や コンプライアンスを含めた内部統制の確立
- ② 人材の育成と活用
- ③ 積極的なCSR·広報·IR活動



「新日空 Target Plan 2010」 初年度の総括

「新日空 Target Plan 2010」の初年度としてスタートした2008年度は、利益重視の経営方針を推し進め、不採算工事の受注回避徹底を続けてまいりました。その結果、受注工事高は896億4千6百万円(前期比11.1%減)、完成工事高は928億6千4百万円(前期比11.7%減)となりました。

当社の得意分野である原子力分野においては、当社の強みを十分に発揮し、受注工事高、完成工事高とも2007年度を大きく上回る成果を得ることが出来ました。また、重点分野と位置付けている産業空調分野については、設備投資抑制や計画延期等の煽りを受け、受注工事高、完成工事高ともに2007年度を下回りましたが、同じく重点分野と位置付けているリニューアル分野においては、地球温暖化防止に向けたCO2削減と省エネルギーへの高まる顧客ニーズにきめ細かな対応を行った結果、受注工事高は目標であるリ

ニューアル比率65%を達成し、完成工事高についても、前期比4.8%の増加となりました。

一方、利益面におきましては、熾烈な価格競争による採算確保の厳しさは引き続きあるものの、徹底した原価低減と現場でのさらなる改善努力や固定費削減に努め、併せて選別受注の効果によって工事損失引当金が大幅に減少したことで、完成工事総利益は91億7千1百万円(前期比3.1%増)、営業利益は25億7千万円(前期比60.8%増)、経常利益は25億5千万円(前期比55.2%増)となりました。

この中で、既存連結子会社の新日空サービス株式会社、新日本空調工程(上海)有限公司に加え、新たにスリランカに設立した「SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED」も当年度より連結子会社となり、今後の貢献が期待されます。

さらに、債権回収促進に取り組んだ成果として、営業キャッシュフローも3期ぶりに37億7百万円のプラスとなりました。

世界的な株安で、当社が保有する有価証券の評価額が下がり、当期利益が大幅減になったことを除けば、大きな成果のあった1年といえます。



基本姿勢と透明性

コーポレート・ガバナンス

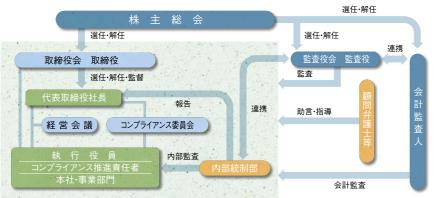
新日本空調グループは、

「環境設備企業」として現行事業領域のさらなる強化と 収益源の多様化、透明性の高い企業への業態変革を基本課題として 「企業価値の向上」を図っていく方針です。

新日本空調は、執行役員制度を導入し、 経営責任の明確化および業務執行の迅速 化を図っています。取締役会は、取締役を 実質的な討議を可能とする人数(8名)にと どめ、法令で定められた事項や経営上の 重要な事項を審議・決定するとともに、取 締役の職務執行が効率性を含め適正に行 われているかを監督しています。また、取 締役会に諮るべき事項および重要な業務 執行については、経営会議(メンバーは取 締役全員および監査役1名)において協議 し、迅速かつ適切な運営を図っています。

また監査役会は、3名の社外監査役を 含む4名で構成され、各監査役は取締役 会をはじめとする重要な会議に出席し、必

コーポレートガバナンス体制図



要に応じて意見を述べるほか、監査役会 が定めた監査の方針、業務の分担などに 従い、取締役等に職務の執行状況の報告 を求め、重要な書類を閲覧し、また各部門 や新日本空調グループ会社へ往杳のうえ 業務および財産の状況を調査しており、公 正かつ的確に監査を実施しています。新日 本空調グループの内部監査を行う内部統 制部は10名で構成し、社長直轄としていま す。監査役と毎月の定例業務連絡会を含 め、十分な連携を図りながら、新日本空調 各部門および新日本空調グループ会社に 対し、定期的に業務執行状況についての 内部監査を実施し、経営方針に対する運 営管理状況と諸基準に対する適合性を評 価し、監査結果を社長に報告することとし ています。

新日本空調の会計監査については、有 限責任監査法人トーマツより、独立の立場 から会計監査を受けております。監査役と 会計監査人は、日頃から監査方法等に関 する意見交換を密に行っているほか、四半 期および期末には会計監査人から監査役 へ監査の総合的かつ詳細な報告を受け、 連携を強めています。

②内部統制システムおよびリスク管理体制

新日本空調は、会社法が定める「業務の 適正を確保するために必要な体制」(内部 統制システム) の基本方針を下記のとおり 定めています。



業務の適正を確保するために必要な体制

- 1. 取締役および使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
- 2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 5 当社企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における (該使用人に関する体制および当該使用人の取締役からの独立性に関する体制)
- 7. 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への
- 8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 9. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

コンプライアンス

新日本空調グループは、コンプライアンスをCSRのベースと位置づけ、 体制の強化に取り組んでいます。

コンプライアンス徹底の取組み

2003年 3月 企業行動憲章を制定 (2008年1月第3版発行)

2005年 2月 ヘルプラインを設置

2006年 1月 第1回コンプライアンス・アンケート実施 (以後、毎年実施)

2006年 2月 社長宣言「当社グループはコンプライアンスに違反 した仕事のやり方や利益の追求はしない」

2007年12月 協力会社をヘルプラインの利用対象者とする

2008年 1月「こんなときどうする? 社員行動基準 コンプライアンス・ケースブック」を発行

2008年 4月 コンプライアンス宣言書を全役職員が提出

「我々はコンプライアンスに違反した仕事のやり方や利益の追求はしない」

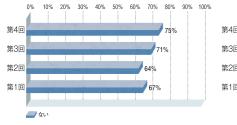
コンプライアンスとヘルプライン



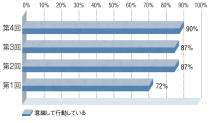
ライアンス

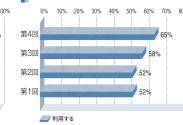


日々の実際の業務遂行と企業行動憲章やコンプライアンス規程に 従った行動との間でジレンマに陥ることがある



企業行動憲章やコンプライアンス規程を 意識して行動している





いざという時、ヘルプラインを利用する

■ 思う

コンプライアンス 上、問題となる 事例をまとめた 小冊子「コンプラ イアンス・ケース ブック」を教材と

した事例解説の ほか、2008年度はコンプライアンス アンケートの結果について、管理職 者層を中心に、問題点の把握・共有 を図る目的で、解説を行いました。

コンプライアンス研修

と維持に向け、またコンプライアンス実践 に必要な知識や情報の周知を図るため に、毎年コンプライアンス研修を実施して います。対象は、役員、職員はもちろんのこ

また、企業は自社の業務における協力会社各社を含めたサプラ 任を強く求められるようになってきていることから、2008年1月より、 と未然防止にご協力いただいています。

■ 自分の所属する職場は言いたいことが言える 風通しのよい職場である コンプライアンスアンケート 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% (意識調査)

コンプライアンス意識の浸透を確認す るために、毎年アンケート(意識調査)を 実施、その結果を施策の立案・実行に活用 しています。4回目となる2008年度は、グ ループ全体の約1,300名に対してアンケー トを実施し、96.4%から回答を得ました。

【解説】全体としては、回を追うごとにコンプライアンス 意識の高まりが確認できるものの、部門別にみると意 識に格差があることや、上司と部下のコミュニケーショ ンの促進など、意識・行動改革が必要な部門がある ことが、アンケートを通じて浮き彫りになりました。これ らの結果を受け、2009年度以降は、部門ごとに潜在 的な問題点を精査し、教育やその他の施策により、 実践的なコンプライアンス活動を実施する計画です。

と、契約社員、派遣社員、および協力会社 の役職員と、新日本空調グループの仕事 に関わる全ての人たちです。2008年度は 延べ56回実施、約1,700名が受講しまし た。

協力会社に対しては、新日本空調のコ ンプライアンスに対する考え方、姿勢や ヘルプライン制度の周知を目的とした研 修を行いました。

役職員のコンプライアンス意識の向上

Basic stance and transparence

財務報告に係わる内部統制の確立と本格運用

財務諸表・有価証券報告書の虚偽記載に繋がるリスクを把握し、

そのリスクをいかに統制しているかを記録し信頼できることを証明するために、

2008年3月末までに内部統制システムの構築を完了し、

2008年4月より「2008年度 内部統制運用評価計画」に基づき本番運用を開始しました。

2008年度 内部統制評価結果の報告

2009年3月までに全社統制、I T全般 統制、決算・財務報告プロセス並びにその 他の業務処理プロセスに関する整備状況 および運用状況評価を終了しました。期中 評価において、軽微な不備が発見されま したが、即刻是正措置を実施し、期末日時 点において不備がないことを確認しまし た。

これを受けて、2009年6月に、財務報告 に係る内部統制の有効性を評価した「内 部統制報告書 |を関東財務局長宛に提出 しました。

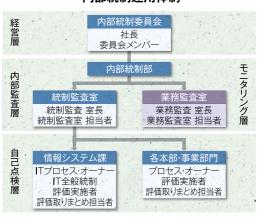
2009年度 内部統制運用計画

2009年度より、旧内部統制プロジェクト 室と旧内部監査室を統合し、内部統制部 を発足させました。内部統制部の下部組 織には統制監査室(旧内部統制プロジェク ト室)と業務監査室(旧内部監査室)があ り、内部統制については統制監査室が、内 部監査については業務監査室がその任に あたります。これにより、統制監査と業務監 査の独立性は維持しつつ、重複する部分 についてはそれを排除することにより監 査部門および被監査部門の効率化を図る こととしました。

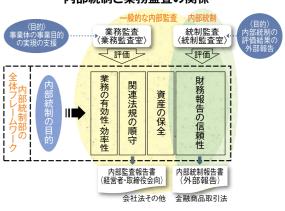
内部統制評価スケジュール



内部統制運用体制



内部統制と業務監査の関係



内部相談制度(ヘルプライン)

コンプライアンスの本質は、企業行動憲章の価値観を反映した 風通しの良い職場環境をつくり、円滑なコミュニケーションを通じ て問題の発生を未然に防止することにあると考えています。万が 一問題が発生した場合は、直ちに上司または関係者に報告、相談 し、迅速に適切な処置をする必要があります。

新日本空調グループでは、コンプライアンスに関する相談、法令 違反発見の報告先として、通常の組織上の報告ルートに加え、社 内(総務部法務課)および社外(男女1名ずつの弁護士)にそれぞ れ専用相談窓口(ヘルプライン)を設置しています。役職員はコン プライアンスに違反する行為を発見し、または実施されるおそれが ある場合、ヘルプラインに報告、相談することができるとしており、

公益通報者保護法に則って、相談者は、職務上のいかなる場合 であっても、その相談を理由に不利益な取扱いを受けないことを明 確に規定し、匿名での受付や本人の同意がない限り秘匿されるこ と等、安心して報告、相談できる仕組みを整備しています。

イチェーン全体の法令順守、環境保全等への配慮など社会的責 新日本空調の協力会社にも内部相談制度(ヘルプライン)を利用 できるようにし、社会からの信頼を失う恐れのある行為の早期是正

春夏秋冬、より快適た居住環境を求める気持ちは太古から現在に至るまで変わりません。 そこで、空調(空気調和)の歴史からその要素と技術、 新日本空調の沿革などを簡単に紹介します。

*暖房は太古から

人間が火を使うようになったのはまさに原始時 代のことですが、焚き火ではなく暖房装置と呼べる ようなものを使うようになったのは、2000年ほど前 のローマ時代のことです。有名なローマの遺跡「カ ラカラ大浴場」などは、既に暖房装置を備えた建物 のひとつでした。

暖房装置は以降工夫改良が加えられ、地域によっ ても様々な装置が生れました。例えばアジアの朝鮮 半島から中国東北地方では床下に煙道を設けた放 射暖房装置「オンドル」が用いられましたが、わが国 では囲炉裏、火鉢、炬燵、 デッグくらいで、 室内全体を 暖める設備は普及しなかったようです。

またヨーロッパでは18世紀に産業革命が起こり、 蒸気動力の発明と共にボイラが発達し蒸気や温水 暖房も普及していきました。



カラカラ大浴場。将兵の休養と市民の社交の場として建設され、 1080年 世界清産に認定されました

*空調は生まれて100年

一方冷房は、やはりローマ時代に、冬季に貯蔵し た氷を切り出して使った事例がありますが、こちら は貴族とか富豪のごく一部の人間しか利用できず、 普及にはほど遠かったようです。ボイラと並んで空 調の熱源機器としてなくてはならない「冷凍機」の 発明は、19世紀末まで待たねばなりませんでした。

そして、1904年に米国のW. H. キャリア博士が、冷 却減湿を応用した温湿度調整装置を発明すること により、初めて現在の空調の基礎が確立されました。

空気調和は、生れてまだ100年余の若い技術なの です。

*空調に気づいたエピソード

「空気調和の父 | W.H.キャリア博士の エピソード「

ニューヨークのサケット・ウィルムヘルズ石版印 刷会社の工場で湿度調節の研究をし、気候の変化 で湿度が高くなると紙が伸び縮みしカラー印刷がう まくいかない中、除湿は空気を冷却することで、水蒸 気を凝縮させれば除去できることに気づきました。

研究を重ね冷凍機で冷却したパイプコイルの中 に空気を送り冷却する機械を発案。世界最初の空 気の減湿装置を設計しました。

エピソード II

ピッツバーグで汽車を待っていたとき、急に温度 が下がると霧が出る現象にヒントを得て、霧と温湿 度制御が結びつくことに気がつきました。

このことは露点温度制御に発展し、噴霧型空気温 度調節法の基礎となりました。

*新日本空調設立の流れ

1915年	米国キャリア・コーポレーション設立
1929年	キャリア博士万国工業会議で来日 「高温多湿の日本には、エアコンディショ ニングが必要。これなくして工業の発展は あり得ない」と。
1930年	東洋キヤリア工業株式会社設立 (米国 キャリアコーポレーションの合弁会社)
1969年	新日本空調株式会社設立 (東洋キヤリア工業株式会社の工事事業 部を分離独立)
2009年	新日本空調株式会社設立40周年



*空気を調和させる技術

空気調和は外来技術であり、英語のAir Conditioningの和訳が「空気調和」です。すなわち、 ある空間の空気状態を望まれる条件に調和させる 技術、それが空気調和です。

日本人は何でも名前を詰めるのが好きで、空気 調和を詰めた「空調」という呼び名も広く浸透してお り、さらに原語の「エアコンディショニング」を詰めた 「エアコン」も既におなじみです。

「望まれる条件」は、対象空間の用途によって異な り、その空間が居室であれば人間にとって快適な空 気状態ですし、半導体工場のクリーンルームでは何 よりも塵埃のない清浄な環境が要求されます。

分類として、人間を対象とする空調(保健用空調) とそれ以外の産業空調(工業用空調)とに分けるこ とがあります。

*空気調和の4要素

空気調和が取り扱う、つまり調和させる空気の性 状とは、温度・湿度・清浄度・気流であり、これらが空 気調和の4要素です。

高度な空調設備では4つの要素全てに対する要 求条件を同時に満たす必要がありますが、簡易的 な空調設備では、例えば温度条件だけの空気調和 を図るといった事例もあります。

しかし、「室温はちょうどいいけれど、乾燥してのど が痛い」というのでは、空気調和としては不完全とい えます。

*結露はなぜ起こる

「空気の成分は?」と訊くと、小学生でも「窒素が約 8割で酸素が約2割」と答えますが、水分はどうなっ ているのでしょう? 実は我々の身の回りの空気は、 砂漠の真ん中であっても水分を含んでいます。

水分は、冷たいビールジョッキの表面には水滴と なって現れ、熱いコーヒーから立ち上る湯気は吸込 まれるように空気中へと消えます。そのカラクリは、 空気の分子と分子の間が離れているので、そのすき 間に水の分子が入り込んでいるからなのです。

但し、そのすき間は温度や圧力によって変化し、 例えば温度を下げると分子間距離が短くなるので、 入り込んでいた水分子が追い出されて水滴となり ます。空気中に含まれる水分の量は、窒素と酸素の 比率のように一定ではなく、温度や圧力によって変 化するのです。

現実には存在しませんが、全く水分を含まない空 気を「乾き空気」と呼びます。我々の周囲にある空気 はこの乾き空気と水分とがごま塩状に混ざっている 状態であり、このように水分を含んだ空気を「湿り空 気」と呼びます。

*インフルエンザ

インフルエンザのウイルスは寒くて乾燥している 冬季に流行しますが、実験では室温を22℃、湿度 50%の状態にすると、ウイルスが大幅に減少すると いわれています。

アレルギーの発生のもとになるアレルゲン(花 粉、カビ、ダニなど)、ホルムアルデヒド、インフルエ ンザウイルスに対し、温度、湿度を調節し、空気の汚 染対策をすることが大事なことといえます。



は、温度、湿度を最適に調節 することが求められます。

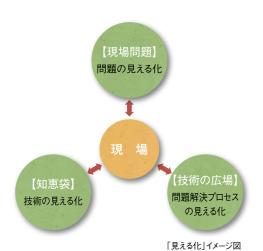


安全・品質・環境マネジメント

透明性の高い企業活動として 現場の見える化」を推進

「見える化」とは組織・現場の潜在化した問題・異常・兆候を顕在化させ、 何が足りず何を補強すべきかを共有し

「問題解決」が促進される水平展開のツールです。 この継続的実施が、問題解決力向上・経営品質向上につながり、 透明性の高い企業風土を作り上げます。



現場の悩みを早期に解決する 「3つの見える化」の推進

当社事業の最前線にある「(設計施工) 現場の見える化」を図ることにより、現場に おける「問題解決力の向上」が「現場力の 強化」を、ひいては「現場の差別化」を実現 することとなります。

"問題の見える化"と"問題解決プロセスの 見える化"および、当社が創業以来蓄積し た"ノウハウ・技術情報の見える化"で、「現 場の問題解決力の向上」を実現します。併 せて、「現場サポート体制を強化」し、熟練 技術者の退職に伴う現場技術力の低下に 対処するとともに、技術の伝承を図ります。

社内システムに情報共有の専用サイト を構築するとともに、安全・品質・環境のマ ネジメントシステムを有効活用できる環 境を推進しています。

ISO9001 OHSAS18001 ISO14001

安全・品質・環境マネジメントシステム の推進

安全・品質・環境マネジメントシステム を効果的に運用することがより高度な技 術と品質の向上につながると考えていま

新日本空調は、品質、環境マネジメント システムの国際規格であるISO9001(品 質), 14001 (環境) のマネジメントシステ ムを既に運用しており、これに安全のマ ネジメントシステム(OHSAS18001:2007 (2009年1月取得))を加え、一体となった システム活動を推進しています。

品質・環境・安全マネジメントシステム の統合による業務の効率化と、バランスの 取れたシステムの運用を目指します。

安全・品質・環境マネジメントシステム 安全・品質・環境方針を一本化し、積極的なマネジメント活動を推進しています。 安全・品質・環境の目標は「新日空 Target Plan 2010」に基づいて設定されており、 この全社目標が、個人目標の設定へとつながるシステムとすることで、「無事故・無災害 の達成」、「施工品質の向上」、「環境保全活動」を確実に実施し、経営品質の向上を目 安全・品質・環境 方針 1 法規制の遵守はもとより、社会規範および当社企業行動憲章に基づき行動する。 2 負傷および病的健康状態の予防、安全に働ける作業環境を構築し、無事故・無災 3 お客様の要求事項を満足する技術と品質を提供するとともに、環境保全活動を積 4 品質・環境・安全マネジメントシステムにおける。日標の達成、有効性について継続 的な改善を図る 5 技術開発から現場施丁、サービスに至るまでの事業活動において省エネルギー。 省 資源に配慮し、環境負荷の低減および汚染の予防に努める。 安全重点宝行項目 メエモニスロスロ] 「現地KY・ベアパトロール・一声かけ運動」の励行による労働災害の防止 2 現地KYでの「リスクアセスメント作業手順書」活用による重大災害の撲滅

4 協力会社とのコンプライアンスを含めた自主管理能力の向上と「安全・品質」活性

- 品質重点実行項目 1 「品質保証システム | 運用による品質向上
- 2 機械式継手からの漏水事故撲滅 3 RN工事における既存設備停止の事故防止(停電・地絡・漏水)

環境重点実行項目

- 1 設計提案によるCO。排出削減提案
- 2 3R活動の推進による建設副産物排出量の削減

技術本部長 山本 英幸

🍩 新日本空間株式会社

労働安全衛生マネジメントシステム の認証を取得!

キュイーより、2009年1月、労働安全衛生マ ネジメントシステムに関する国際規格であ るOHSAS18001の認証を取得しました。対象 は、統括部門である本社技術本部と、産業施 設事業本部、名古屋支店の3部門で、2009 年度は認証取得を全事業部門に拡張する

け、外部の視点から安全管理の問題点・課 題を洗い出し、労働安全衛生活動の「見える 化」を推進し、安全衛生管理能力のスパイラ ルアップを図ります。



次年度は認証取得を全事業所



OHSAS18001認定書



2008年4月上川 労働安 全衛牛マネジメントシステム の認証取得に向けた取り

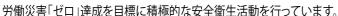
新日本空調は、㈱日本エイ・ビー・エス・

今後は、認証機関の審査を継続的に受

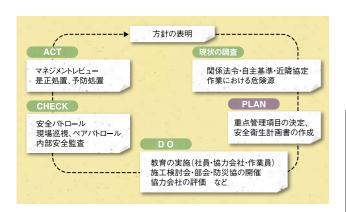
12 | SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CSR Report 2009

Management of safety, quality and environment

新日本空調は、社員および作業員の安全・健康を守ることは企業の社会的責任であり、安全確保は最重要な経営課題と位置づけています。 社員、協力会社および作業員は、労働安全衛生マネジメントシステム運用による







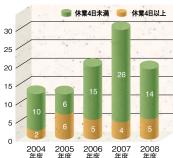
リスクアセスメントへの取り組み

会社および現場の労働安全衛生管理に は、事業部門、現場および協力会社が一体 となった P (計画) → D (実行) → C (点検) → A(改善)のサイクル活動を推し進めること が重要です。

新日本空調は、このサイクル活動の中に 労働安全衛生マネジメントシステムを取 り入れ、従来の"事後的再発防止活動"か ら、リスクアセスメントによる"予防的リス ク対策活動"へ安全衛生活動を進化させ ています。

リスクアセスメントとは、作業に潜む危 険性・有害性(リスク)を事前に評価し、危 険度に応じて除去・低減の対策を実施す ることにより、労働災害を予防的に排除す る取り組みです。

災害発生の推移(死傷者数)



2008年度の 労働災害発生状況

2008年度の休業4日以上の被災者数は 5名で2007年度の4名より1名増加しまし たが、休業4日未満の被災者数は14名で 2007年度の26名より大きく減少しました。 2009年度は、労働安全衛牛マネジメン トシステム (OHSAS:オーサス) を全社で 運用し、特に「墜落・転落災害」の防止を最 重要の取り組みとして活動します。



リスクアセスメント作業手順書の活用



リスクアヤスメント作業手順書 の活用

労働災害の多くは「作業のやり方を知ら ない、知っていてもやらない」などから発 生する不安全行動に起因しています。

この対策として、作業開始前に、計員・職 長・作業員が協力して作業手順の確認、リ スクアセスメントを行い、作業計画を立て 作業手順書に記載して、現地に掲示しま す。社員と作業員はこの作業手順書を共通 情報として相互に確認し、リスクを排除し ながら作業を安全に進めます。

現地危険予知活動 (現地KY活動)の実施

現場の施工が進むにつれ、作業の手順、 リスクも日々変化します。現地KY活動とは、 「作業エリアで、現物を見ながら、現実を とらえてIKY活動を行うことです。作業開 始前に現地を確認しながらリスクを洗い 出し、社員・職長・作業員がそのリスク対策 案を協議します。

この活動では、作業員一人ひとりがその 現場経験に基づき、具体的な対策案を提 示し、労働災害の予防に努めています。

Management of safety, quality and environment

常にお客様のご要望を満足させる技術と品質を提供いたします。



2008年度の苦情·事故発生状況

2008年度の苦情事故件数は77件、その うち漏水事故件数は29件と、いずれも過 去の件数を下回りました。この減少は新 日本空調が推進している"品質保証システ ム"が機能し、P·D·C·Aサイクルを回して いることが寄与していると思われます。

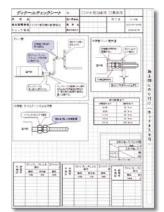
2009年度は苦情・事故対策の全社目標 として、

- ①「品質保証システム」の運用による品質 向上
- ②機械式継手からの漏水事故撲滅
- ③リニューアル工事における既存設備停 止事故の防止(停電・地絡・漏水)
- を掲げ、品質向上活動を更に推進するとと もに、事故再発防止の管理徹底を実施し ます。

テール、チェック項目が一体となった『ディ テールチェックシート(DCS)』です。各現 場では作業状況に合わせて創意工夫した DCSを作成し、施工プロセス管理を確実に 実施し品質を作り込んでいます。







ディテールチェックシート(DCS)

品質保証システム | の運用による 品質向上

品質保証システムは"施工プロセス管 理により品質を作り込む"というものです。 これを具現化するものが、管理項目、ディ

新入社員教育

新入社員には施工現場と営業現場における実践研修を体験させています。

●ダクト丁場見学

......九州支店 村田 徹

ダクトの製造工場を見学しました。ダクトはパーツを機械で作り、 そのパーツを職人さんが組み立てています。この作業は長年経 験を経ることで、より品質の良いダクトができると聞いて、現場経 験が非常に大切であることを実感しました。このようにダクトを作

る職人さん、施工する職人さ んがいて工事が成り立って いることを知り、現場作業に 関わるすべての人とコミュニ ケーションを取り、互いの経 験を尊重しながら管理してゆ くことが大切なのだと考えさ せられました。



丁堤提供 (株)協和丁業

●新入社員の現場見学

······技術開発研究所 久木田 亮子

現場における私たちの主な仕事には、工程管理や職人さんの安 全管理などがあると聞いていました。実際現場に入ると常に危険 にさらされていて、管理者になる自分も十分安全に気をつけなけ ればならないことを実感しました。また、工事はそれぞれ分業して

建物が造られていることを実 際に見て、協力会社間の調 整や施工の段取りが非常に 大切なものであることを実感 しました。



環境活動

注 記

1. データ集計範囲は、新日本

空調の本社、支店のオフィス

と工事作業所としています。

(ただし海外工事は含みませ

電気事業連合会:2007年9

月版「電気事業における環

境行動計画」使用端電気

環境省:地球温暖化対策の

推進に関する法律施工令

第三条(平成18年3月24日

一部改正)「排出係数一覧」

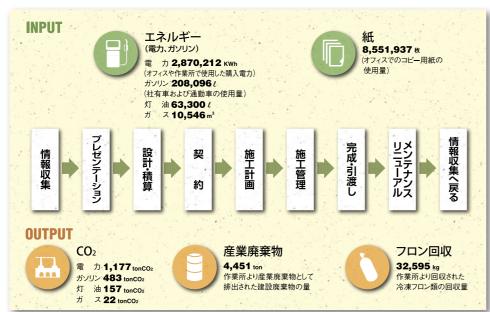
CO2排出原単位

2. CO₂排出係数:電気0.41、ガ ソリン2.32

新日本空調は、地球環境保全を視野に入れた企業活動に取り組んでいます。 活動の目的・目標を明確にした「環境活動方針」を定め、 本社・事業部門が一体となった活動を推進し環境負荷の低減に努めています。



新日本空調のINPUTとOUTPUT



2008年度 環境活動報告と評価

2008年度は、建設副産物排出量の削減、設計提案によるCO2の削減を重点に活

動し、目標を達成しました。

2009年度も重点実行項目として活動するとともに、オフィスにおける温暖化ガス排出 (CO₂)の目標値を設定し、活動を推進します。

2008年度 環境目標および活動内容

	2008年度の環境目標	2008年度の活動結果	社内評価
1	環境に配慮した技術提案、研究開発の推進	646件の技術(設計)提案を実施	0
2	環境保全対応方針に基づく環境負荷低減活動の推進		
	①現場排出物の管理・把握	建設副産物総排出量は、目標5,000tonに対し、4,451ton 産業廃棄物の分別回収と適正処理(100%)し、再資源化を実施	0.
	②施工物件に対するCO2の評価と削減策	目標48,270tonCO2に対し、58,617tonCO2の削減提案を実施	0
	③LCAの推進*	 客先要求物件に対し、100%実施	0
	④シックハウス症候群・有害物質対応	現場で塗料・接着剤等、化学物質使用資材の購入時、 データ(MSDS)を入手し有害物質の無いことを確認実施	0
	⑤温暖化ガスの総排出量の管理・把握	電気・ガソリン・ガス・灯油等の使用量削減活動により、 温暖化ガス総排出量1,839tonCO₂(2007年比11%削減)	0
	⑥自動車・輸送における環境負荷低減	7台の省エネ車(電気自動車、ハイブリッド車、低排出ガス認定車)への切替えを実施	0
	⑦グリーン調達基準の策定、運用	グリーン調達要領を策定し、運用	0
	8従業員の石綿被害調査		0
	⑨植林・森林保全活動の実施	社会貢献部等の活動で奥多摩植樹活動に参加	0
	⑩温暖化ガスの総排出量の削減コスト試算	自社ビルを対象に省エネ設備導入、コスト試算検討中	Δ

※ LCA (Life Cycle Assessment ライフサイクルアセスメント)

製品の一生における環境負荷を評価する手法。施工設備の建設から運用を経て廃却に至るまでのすべての段階での環境負荷を総合して評価する。

産業廃棄物量10,000 8,000 4,000 2,000 0 2006年度 2007年度 2008年度

産業廃棄物の削減

2008年度産業廃棄物量は、4,451tonでした。2009年度は、施工方法の改善、資材・梱包材の減容化、および分別回収など「3R活動による建設副産物排出量の削減」を重点実行項目に掲げ、2008年度比5%の削減を目指します。

通い箱による 梱包材のリサイクル推進

オリンパス八王子石川1号棟計画の現場では、ダンボール類のリサイクル率向上を目指し「通い箱」による継手・バルブ類など資材の無梱包化を実施しました。

また、この通い箱は折りたたみ式で、空になった場合は容積が約1/4となり、現場と代理店資材配送センター間の運搬車両台数も減りCO₂削減にも寄与しています。



段ボールに比べ、輸送経費、CO2 削減だけでなく耐久性・内容物保 護性に優れている通い箱



畳むでことで、広げた状態に比べ容積が1/4と作業効率や輸送効率を考慮した設計

設計段階での 省エネ提案の推進

お客様に対し、環境に配慮した省エネ提案を行いCO₂排出量の削減を推進しています。

2008年度は、提案件数の増加 によりCO₂削減量は、58,617tonー CO₂と前年を約20%上回りました。

2009年度も当社の実用化技術 (T-PAS、ツインセーブ等)の提案 も含め、お客様に貢献できる環境 負荷低減活動を推進しています。



2009年度 環境活動

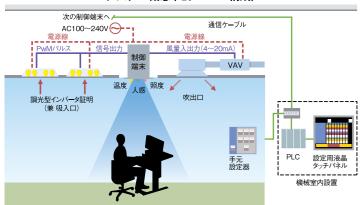
	2009年度 環境活動	
	2009年度の環境活動	目標値
設計	設計提案によるCO2排出削減 ・客先設備の運用に伴うエネルギー消費CO2排出量の削減提案	2008年度比5%增 61,548tonCO ₂
施工	3R活動の推進による建設副産物排出量の削減 ・無梱包、梱包簡素化、簡易梱包の推進 ・機器、資材のユニット化、プレハブ化による現場持ち込み資材の減容化推進 ・分別回収の徹底、リサイクル回収の推進	2008年度比5%減 4,228ton
オフィス	環境負荷低減活動の推進 ・オフィスでの電気、ガソリン、灯油等の使用量削減 ・業務用車両(リース車含む)での省エネ車の導入推進 ・協力会社への環境負荷低減活動の推進要請 ・グリーン購入の推進 ・温暖効果ガスCO2排出量を削減するための省エネ設備導入の検討	2008年度比5%減 1,747tonCO2

環境技術紹介

地球規模で求められる"快適環境"と"省エネルギー"にたえまぬ研究開発と確かな技術で応えています。



システム概念(モジュール構成)



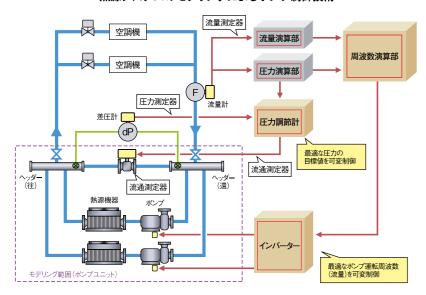
空調・照明一体制御システム 「ツインセーブ」 販売開始

細分化モジュール単位での 在席検知により、消費電力を約30%削減

新日本空調は、事務室空間において、 在席者の有無を検知して小単位で制御可 能な快適性と省エネルギー効果の高い空調・照明一体制御システム(名称:ツインセーブ、特許申請済み)の実用化開発を完了し、2009年4月からシステム販売を開始しました。本システムは、10~20㎡のモジュールごとに人感・照度・温度センサー、制御・電源回路およびネットワーク端末を搭載した制御端末を設置し、在席者の有無によるモジュール単位での風量制御、調光制御が可能となります。

これらの制御を行うため、各モジュールには、風量調節用VAVユニット、インバーター調光器付照明装置、新開発の制御端末を設置しています。制御端末には、人感、温度、照度などの制御付各センサー、ネットワーク端末、電源・制御回路が搭載されています。

熱源システムのモデリングによるポンプ制御技術



従来不可能であった1台のポンプで"流量と圧力の両方を制御"しながら熱源機器を安定して運転することが可能となり、年間ポンプ動力を40~60%削減できるとともに、2次ポンプが不要になるため機械室のスペースを削減できます。新築・リニューアルを問わず、様々な施設・建物への展開が可能です。

流量・圧力を同時に制御する ポンプ制御技術「P-Q master」

年間動力40%~60%削減可能

新日本空調は、単式ポンプ方式の配管設備において、流量と圧力の両方を同時に制御可能なポンプ制御技術「P-Q master」(特許出願中)を開発しました。

本ポンプ制御技術は、熱源機器・ポンプ・配管類など熱源システムの一部をポンプユニットとしてモデル化し、予め実際に導入する施設のポンプニュットの流量と圧力の関係を実測してプログラムに組み込むことにより、空調機側の流量と配管抵抗から決定されるヘッダー間差圧を用いてポンプ運転周波数と設定圧力を演算し、熱源機器の許容運転流量範囲内でポンプを最適に制御します。

空調用外気取入れルーバー・

レインキャプチャー

第7回環境・設備デザイン賞の 最優秀賞を受賞!

(社)建築設備綜合協会が主催する「第7回環境・設備デザイン賞」において、新日本空調と新菱アクアエア株式会社が開発した「空調用外気取入れルーバー・レインキャプチャー」が、設備器具・システムデザイン部門の最優秀賞を受賞しました。

「レインキャプチャー」は、雨水の捕集効率が著しく高く、しかも低圧力損失・低騒音の超高性能縦型ルーバーで、独自の羽根形状と下部水切り構造により、低速から高速まで雨水の浸入をほほ完璧にシャットアウトできるため、電気品室等の外壁開口部での使用に適しています。

ルーバーの下部構造イメージ

また、本ルーバーは高速で使用しても 低圧力損失・低騒音であるため、空調動力 の低減に効果があり、既に国内の原子力 発電所の約70カ所に納入しています。



機能性 ■独自の羽根形状と雨水 排出構造により雨水の 浸入をほぼ完璧にシャッ

トアウトします。 ■幅広い風速域で安定した捕集効率を実現しまし

経済性 ■高い捕集効率を可能に しながら低圧力損失を実 現しました。

■従来品よりも圧力損失が低いことから搬送エネルギーを抑えることができ、省エネになります。

環境性 ■風切り音が小さく低騒音

です。

■高速で使用しても不快 な騒音を発生しません。

地中熱利用空調システム

自然エネルギー利用への取り組みによる 省エネルギーおよびCO2排出量削減

新日本空調は、21世紀初めから様々な 方式による地中熱利用システムを施工・ 運用し、評価を行っています。土壌や地下 水が保有する地中熱は、年平均外気温度 よりも1~2℃程度高い低温エネルギーで

地下水を利用した

建物の基礎粒を

新日本空調は、設計・施工経験により蓄積したノウハウを活かし、省エネルギーおよびCO2排出量削減に貢献しています。

地下ピット・地下水などを

地下の雑田水槽を活用した

す。その温度は、外気温度よりも夏は低く、 冬は高いという特性があります。ヒートポンプの熱源への地中熱の活用では、熱の 汲み上げ温度差を縮小して高効率運用を 可能とし、また外気冷却・加熱の熱源への 活用では、熱処理エネルギーの低減を可 能とします。

| 大名の冷却・加熱の熱源 | 大名の冷却・加熱の熱源

道路上の雪を融かす

18 shin nippon air technologies csr Report 2009

環境配慮型物件の施工実績

高度な技術で温室効果ガス総排出量を削減するだけでなく、 各物件ごとに将来を見据えたきめ細かい設備工事を行っています。





環境・省エネルギー対策を施した超高層ビルは 明治神宮外苑(外苑前)の新名所となってい (工期:2006年6月~2008年8月)

青山 OM-SQUARE 導入設備 i)個別 VAV 可変風量方式

- ②水冷HP式パッケージ方式
- ③地域冷暖屋の受入 ④水蓄熱システム
- ⑤ 大温度差送水
- 6大温度差送風
- ⑦外気冷屋の導入
- ⑧中水設備と雨水ろ過設備

工しました。熱源は北青山二丁目地域冷 暖房より受入れており、地下階では空調 機+FCU方式を、地下1階〜地上1階の店 舗部分は空冷HP式パッケージ方式を採 用。3階~24階のテナントエリアでは、イン テリアゾーンを個別VAV可変風量方式、ペ リメーターゾーン、EVホールおよびトイ レを水冷HP式パッケージ方式で構成し ています。

地域冷暖房の受入のほか、水蓄熱シス テム、大温度差送水、大温度差送風、外気 冷房の導入や、中水設備と雨水ろ過設備 による水の再利用など、積極的に省エネ ルギーへの取組みを行っている設備です。

オリンパス㈱技術開発センター石川

導入設備 カルバート敷設 浄水施設移設 空調・衛生・消火設備の施工 ターボ冷凍機 床吹き出し方式空調機 深夜電力による蓄熱運転

深夜電力による蓄熱運転の エコロジー施設

最新の空調・衛牛設備工事で

積極的に省エネルギー

青山OM-SQUARE(オーエムスクエア/

東京都港区)は、ハザマビルと同別館の跡

地に再開発した複合ビルで、低層部が店

舗、ショールーム、高層部がオフィスフロア

となっています。規模は地上25階・地下3

階建て、延床面積は47,135㎡。地下鉄の外

苑前駅に直結しており、青山通り沿いに伊

藤忠本社ビルや秩父宮ラグビー場に隣接

新日本空調は空調・衛生設備工事を施

●青山OM-SQUARE

しています。

●オリンパス(株)技術開発センター石川

本工事は、2008年よりオリンパス(株)技術 開発センター石川(東京都八王子市)にお いて、石川再開発計画としてスタートしま した。再開発計画STEP I としてカルバート



約2.300人が働く同社国内最大級の拠点

敷設、浄水施設移 設、新棟1、新棟2、 電波暗室棟、炉室 棟、第2警備室棟 の建設が行われ、 当社は新棟2以外 の空調・衛生・消 火設備の施工を行 いました。同セン ターは映像・医療・ 分析等、同社のほ とんどの製品を研 究開発する国内最大級の拠点で、約2,300 名が働いています。新棟1は中枢的機能を 持った建物で、RCSS造(免震構造)・地上 10階塔屋2階・延床面積32,059㎡で、高層 階には居室、実験室、低層階にはサーバー 室、食堂等の厚生施設、打合・応接室、展示 室、プレゼンテーションルーム等がありま す。低層棟では屋上緑化も行っています。

熱源設備はターボ冷凍機・ボイラー・モ ジュールチラー・蓄熱槽で構成され、空調 機・ファンコイルにて空調しています。上層 階のほとんどは床吹き出し方式を採用し、 不快な気流や汚染された空気の拡散がな いため、健康的で快適な環境を実現して います。天井ダクトが不要なため、レイアウ トに制約がなく柔軟な間仕切り対応が可 能です。また、深夜電力による蓄熱運転を 行っており、地球環境にも配慮した建物と なっています。

自動車用小型モーター製造工場の ESCO事業 (省エネルギー率約10%)に協力

●アスモ株式会社本社工場

新日本空調は『アスモ株式会社本社 工場殿向省エネルギー設備』において、 ESCO事業による省エネプラント導入に協 力しました。

本事業はアスモ株式会社を発注者、中 部電力系列の株式会社シーエナジーを事 業主とし、新日本空調は施工者として事業 参画したもので、省エネプラントは2009年 4月1日から本格稼働しています。この省工 ネプラントは、高効率エアコンプレッサー の導入と、ガスタービンコジェネレーショ ン(熱電併給)設備の排熱利用の2つを柱 としています。具体的には、ガスタービン



アスモ株式会社本社工場

の排ガスボイラーから出される高圧蒸気 が使用圧力に減圧される際のエネルギー を高効率コンプレッサーの補助動力とし て利用し、減圧後の蒸気は蒸気吸収式冷 凍機の熱源や圧縮空気の加熱に利用する 一方、コジェネレーションの排気ダクトか ら排熱していた熱も熱交換器により90℃ の温水として熱回収し、温水吸収式冷凍 機の熱源として利用するなど、19項目にお よぶ省エネルギー技術を採用しており、エ ネルギー消費削減量は原油換算で年間 2.880kL(削減率:約10%)、CO2削減量は年 間5,000t-CO2(削減率:約10%)を達成す る見込みです。



更新された蒸気アシスト付

アスモ株式会社 本社工場 1)高効率エアコンプレッサーの導入

ホテル省エネ作戦 天然ガスボイラへの転換

●札幌パークホテル

1964年竣工の札幌パークホテルは札幌 市内の中島公園内にあり、緑に囲まれ景 観の良いホテルです。また、天皇陛下が来 訪される際に御宿泊されることでも有名 です。

新日本空調は、北海道ガスと共同で天 然ガス化推進補助事業改修工事として、ホ テルの給湯・冷暖房用ボイラーの燃料とし て使用している重油を二酸化炭素(CO2) 排出量の少ない道内産天然ガス用のボイ ラーにリニューアルしました。ホテルを営 業しながらの工事のため、切り替え手順、 作業スケジュールなどホテル側と綿密な 打合せを行い"ホテルを利用されるお客 様にご迷惑を掛けない施工"を基本に工 事を完了し、省エネホテルとして地域環境 に貢献しました。



A重油焚き炉筒煙管ボイラー

札幌パークホテル 導入設備)天然ガス用ボイラーにリニューアル



天然ガス焚き貫流ボイラー



ステークホルダーとの対話

コミュニケーション

新日本空調は、事業および環境・安全に関する情報を積極的に提供するとともに、 さまざまな形で社会・地域の皆さまとのコミュニケーション活動を行っています。



新日本空調の「環境設備企業」としての取り組み状況を分かりやすく、見えやすく紹介

「新日本空調 技術フェア2008 in 東京」を開催

2008年10月7日(火)~10日(金)、新日本空調本社にて「新日本空調 技術フェア 2008 in 東京」を開催いたしました。本展示会では、「環境設備企業として顧客ニーズに応える」をテーマに、社内パワーの集結、および社外へのアピールを目的として開催され、この度、常設展示となった「微粒子可視化技術ブース」をはじめ、流下液膜式凍結濃縮装置、DR剤などを出展し、254社656名の方々にご来場いただきました。

「スリランカ日本人会·日本人学校 共催運動会」を開催

2008年9月28日、「スリランカ日本人会・日本人学校共催運動会」が現地スリランカで開催されました。このスポーツイベントは年3回実施され、日本人小・中学校(全生徒数25人)の運動会に、日本人会所属の約100人(うち当社8名参加)の大人たちが参加し、現地に所属する子供たちや他社の人々とふれあい、親睦を深めています。



異国での生活では親睦を深めることは、とても大事。競技もついつい力が入る。





首都圏地区協力会 CD&Q活成会成果発表会の開催

2009年4月、協力会社120名、職員80名の合計200名によりCD&Q活成会成果発表会を開催しました。当日は、4グループ(ダクト・保温・配管・冷媒/機器)による活動報告が行われました。現場で起き

る問題解決と改善に結び付ける力こそが「現場力の向上・強化」となり「現場の差別化」「企業の差別化」へと繋がります。「チームSNK」は安全・品質の向上を図り顧客満足を達成するために、協力会社と職員がお互いの信頼と協力により、知恵を絞り方策を見出して実行し、成果に繋げる活動を推進します。



CD&Q活成会とは、新日本空調と協力会社間 のコミュニケーションを活性化させることにより 成果を出し、最適なコストで品質向上を目指す 活動です。



質問全てに丁寧に対応 し、皆様の理解と協力を 得られました。



2008年度決算説明会を開催

2009年5月14日(木)、大手町にあるアーバンネット大手町ビル21階にて、投資家・アナリスト、新聞記者などの皆さま約40名

にお集まりいただき、2009年3月期の決算概要や2009年度の事業計画達成に向けた具体的施策を説明しました。説明後には、参加の皆さまから沢山の質問をいただき、全ての質問に、社長をはじめ担当役員が真摯に回答し、当社への理解が深まったものと思われます。

全国各地域で「安全衛生大会」を開催

新日本空調は、毎年4月に本社・首都圏 地区、大阪、名古屋など全国各地域にて、 当社職員、協力会社の方々が参加する「安 全衛生大会」を開催しています。

2009年の「安全衛生大会」は、4月24日 に社長をはじめ役職員、協力会社、中央労 働基準監督署からの来賓を迎え、約620 名に参加いただき開催されました。同大 会では、労働災害の撲滅活動の徹底を図るため、社長の訓話、安全表彰、安全の宣誓、特別講演などを行い、特別講演では、外部講師による「働きざかりの健康管理」をテーマとした講演を行いました。





人権 · 制度 · 人材育成 · 職場環境

差別や偏見のない、社員全員が安心して働ける環境づくりを進めています。 ゆとりと満足感のある仕事が私達のやりがいの源です。



リフレッシュ研修でのディスカッション

定年再雇用者のやりがいと 知恵の伝承を目指した新制度

4月からスタートした新たな定年再雇用制度は、再雇用者のやりがいと、その職務遂行が若手の成長や応援に繋がり、両者の満足感が得られることを目指しています。その先駆けとして、2008年度にはATM制度がスタートしています。

再雇用者は全員、新設された人材センターに所属します。同センターでは現場からの仕事のオファーと、再雇用者の希望職務を集め、両者のマッチを図っています。

また、意識を新たにする機会として、定 年を迎える職員向けに、リフレッシュ研修 を開催しています。制度や期待役割の理 解のほか、現役時代のベストジョブや失敗 事例のディスカッションを行い、集まった 経験談は若い世代へ伝承して行く貴重な 資料になっていきます。

ATM (Active Training Monday) 制度の実績

知恵と経験の伝承を目指し、再雇用者等を 指導員として活用するATMは、2008年度、3 名の指導員により、76名(延べ150名)の若手 に対して行われました。

みんなの声

●若手

指導回数をもっと増やしてほしい。

●指導員

座学とOJTの繰り返しの大切さを実感した。

リフレッシュ研修参加者の声



池谷 誠 都市施設事業部

経験してきた成功・失敗 などを含め、普段話をす る機会がないことを同 世代と話し合え有意義 な時間だった。



北村 修一

社会人としての大きな節目である定年前の心構えを、新たにするために 参考となった。

女性職員の職域拡大への取組み

2007年度より、女性事務・営業職員を対象とした「空調設備研修」を、茅野研修所の施工訓練設備で行っています。実際にダクトやコイル、ファンを触り、工具を用いて、設備の解体・復旧と試運転を自分たちの手で行います。また、技術開発研究所を見学し、保有技術や工事現場への理解を深めています。技術系に続き、事務・営業系女性職員についても現場への進出による職域拡大を目指していきます。



ダクト設備を解体中(茅野研修所)

講者の声

- ●実際に体験して、また見ることで、漠然としか知らなかったことが形になりました。
- ●実際の作業をして、現場で働く人の苦労が少しわかりました。

障がい者雇用率

上海現地法人スタッフの 国内研修

上海現地法人スタッフが、研修生として、毎年日本国内の産業施設の設計・施工現場で、OJTによる技術研修を受けています。

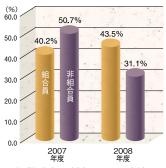
銭寧(チィエン・ニン)さん(写真:左側)は、「家族と離れて寂しかったが、日本で沢山の技術的な知識や文化を学び、全体的にレベルアップ出来ました。戻ったら学んだ多くの事を活かして仕事をしていきたい」と意気込みを語っています。

技術ばかりでなく、何でも学んで持って帰ろうという気持ちが伝わってきます。日本の空調技術を中国本土に広める架け橋として、今後の活躍が期待されます。



日本の生活にも馴れ、熱心に技術研修に勤しむ銭寧さん

リフレッシュ休暇 取得率



現場勤務者を対象として、連続3日間の代休取得を促進する制度です。

研修受講者数と1人当りの受講日数 2.5 人 (全) 1500 (1.5 回受講者 2000 年間 2.5 人 (1.5 回受 3.5 人 (1.5 回

2007年度 2008年度

やりがいの先にお客様満足がある

●自分の夢を追っている社員を紹介します。

都市施設事業部の中島君は、2005年入社の29歳です。東京ミッドタウンや羽田空港整備場の工事担当を経験してきました。昨年6月、入社当初から念願だった「現場所長」になり、夢の扉が1つ開きました。周囲の協力を得ながら、電気・機械・建築の専門知識を身につけ、日々変化する仕事に果敢に取り組み、有意義な毎日を過ごしています。

中島君の次の夢は、「自分の個性を発揮して、自分もお客様も満足する設備を作り上げること」です。



新入社員を指導する中島君

社会貢献活動

「良き企業市民」として、芸術文化、スポーツ、教育・福祉などの振興を継続的に支援してまいります。 また、職員のボランティア活動への参加を支援しています。





2008年11月28日 青森県階上町立道仏小学校での 「ふれあいプログラム」

「ふれあいトリオ」を協賛

新日本空調は、他の有志企業7社と共 に、「ふれあいトリオ」を協賛しています。

2003年に三井広報委員会の支援により 開始されたこの文化事業は、2008年には 新日本空調を含む企業グループの協賛に より再スタートし、これまでに約270公演、 6万人以上の方々に参加いただきました。

「ふれあいトリオ」は、「音楽の感動宅急便! クラシック音楽を通じて豊かな心を育てよう」をスローガンに、下記の3つのプログラムによって成り立っています。

①ふれあいプログラム

全国の学校に出向き、子供達の手の届 く距離で名曲が演奏されます。

②ふれあいコンサート

「ふれあいプログラム」の開催地の近隣 ホールで行われる本格的なコンサート です。

③ふれあいマーケット

障がい者の方々が働く施設で作られた 工芸品やお菓子などを、コンサート会場 のロビーで販売する支援を行っていま す。

「ふれあいトリオ」の活動内容や記録 については、ホームページ(http://www. fureaitrio.com/)をご覧下さい。



ヴァイオリニストの吉田恭子さん

photo: 岩切 等/写真提供: Kトレーディング株式会社

ニッポン放送 「第34回ラジオ・チャリティ・ ミュージックソン」を協賛

新日本空調は、ニッポン放送(ダイヤル: 1242kHz)の「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」を2004年から連続して協賛しています。

本番組は、目の不自由な方が安心して 街を歩けるように『音の出る信号機』を設 置するための"通りゃんせ基金"を募るチャ



毎年たくさんの暖かいご協力・ご支援を いただいています。

リティキャンペーンで、1975年より毎年クリスマスの24時間生放送を中心として実施しており、2008年のパーソナリティは、 萩本欽一さんと東貴博さんが努められました。

写真提供:株式会社ニッポン放送

ヴィンチェンツォ·ラ·スコーラの コンサートを特別協賛!!

2008年7月29日(火)、「新日本空調 Present ヴィンチェンツォ・ラ・スコーラ・コンサート(主催:産経新聞社/モーストリー・クラシック)」が横浜みなとみらいホールにて開催され、満員の場内は「シチリアの情熱 太陽の声」に満ち溢れていました。

今回は、マルコ・ボエーミのピアノ伴奏 のみのシンプルなスタイルでしたが、ス コーラの美声(テノール)は聴衆の心と身 体に波動となって伝わり、イタリア・アリアとカンツォーネの世界をお客様に堪能していただくことができました。

1 曲終わるごとに、場内のあちこちから "ブラボー!"の声が掛かり、アンコールも2 回(1 曲目は「浜辺の歌」を日本語で)、鳴 り止まぬ拍手の中、コンサートは終了しま した。

新日本空調は、社会貢献(文化支援)活動の一環として、2005年からモーストリー・クラシック主催(産経新聞社は、主催または共催)のクラシック・コンサートを特別協賛しています。



本社・九州支店にて 「エコキャップ回収活動」始動!

"地球に愛を、子どもに愛を"

2009年1月より「NPO法人エコキャップ 推進協会」の活動に賛同し、"ペットボトル の蓋"回収箱・袋を設置し、活動を推進して います。キャップを分別回収し再資源化を 促進することにより、CO₂の発生抑制に寄 与できると同時に、キャップの売却益で世 界の子供たちにワクチンが届けられます。

協力会社の方々にもご協力願い、約 一万個(13人分)のワクチンを提供することができました。

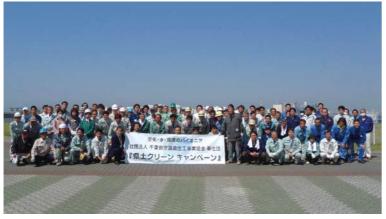


回収した"ペットボトルの蓋"





1時間の清掃活動で地域に貢献



市民の憩いの場というだけでなく、「千葉港発祥の地」でもある千葉ポートパークの清掃活動に参加

(社)千葉県空調衛生工事業協会主催の 「県土クリーンキャンペーン」に参加

●関東支店

2009年4月、初夏を思わせる暑さの中、 千葉ポートパーク周辺での海岸清掃および公園内のゴミ拾いに関東支店から2名 が参加しました。

約2時間の作業で、2トントラック約3 台分のゴミを撤去しました。

「空気と水と環境の明日を考える」を テーマに業界の地位向上を目指し、これからも清掃活動を継続して公園の利用者の 方にも美化意識を持ってもらえればと思います。

大洗海岸清掃ボランティア 「ゴミゼロ作戦」に参加

●原子力事業部

2008年6月、大洗海岸サンビーチにて、 日本原子力研究開発機構・大洗研究開発 センター安全推進協議会主催の海岸清掃 が行われ、新日本空調の東海村営業所員 が参加しました。

参加企業は安推協

構成会社112社、約480

名が参加し清掃後は、

地引網、バーベキュー・

ゲームが行われ大洗の

原子力研究関連施設で

働く皆様との親睦が図

れました。



皆様の協力で、トラックの荷台いっぱいのゴミが回収されました。

奥多摩「水源林保全プロジェクト」 への参加

2009年2月、三井ボランティアネット ワーク事業団による奥多摩「水源林保全プロジェクト」に、新日本空調の本社・社会貢献部のメンバーが参加しました。

地元奥多摩町観光協会に協力し、奥多 摩駅前の山斜面に約200本の蝋梅(ろうばい)を植林しました。



地域の活性化に繋がるボランティア活動に参加

マツダ防府工場の安全衛生協力会 「ごみのない街づくり」活動に参加

●中国支店

2008年11月、山口県防府市内の清掃作業を新日本空調の重要顧客であるマツダ (株)防府工場殿の安全衛生協力会のメン

バー(建設・電気部会、改造・修理部会)合同で実施しました。

中国支店より2名が参加し、防府市役所よりJR防府駅までの周辺を「マツダ防府工場の安全衛生協力会」の幟を持って約1時間清掃作業を行い「ごみのない街づくり」に貢献するとともに、活動後の懇談会で会員相互の親睦を深めました。



さまざまなゴミを回収し、「県民の森」は美しさを取り戻しました。

「県民の森クリーンアップ大作戦2008」 に参加

●東北支店

2008年11月、宮城県仙台市・利府町・富谷町の1市2町にまたがる宮城県民の森にて「県民の森クリーンアップ大作戦2008」と題して園内および沿線道路の一斉清掃が行われ、東北支店からも有志6名が参加しました。

当日は、曇り空のあいにくの天候ではありましたが近隣の住民の方々や仙台市内および近郊の企業などから約240名が参加し、460haに及ぶ広い園内の遊歩道沿いを中心に実施しました。

飲食店などから捨てられたと思われる 大量の空き瓶、冷蔵庫、テレビ、いす、ソ ファなど不法に投棄されたゴミの多さに 驚かされました。

名古屋市主催 「クリーンキャンペーン」に参加

●名古屋支店

2008年11月、名古屋市主催の「安心・安全で快適なまちづくりキャンペーンなごや2008」に中部経済同友会の会員として、名古屋支店より有志5名が参加しました。

参加団体21団体(参加企業103社)にて、名古屋の観光名所のテレビ塔がある中区栄周辺を1時間半清掃しました。

今回の清掃区域は、春に行った名古屋 駅周辺清掃と比べるとゴミは少なく、美化 活動が活発に行われており環境意識の地 域差を感じました。



そろいのキャップとTシャツで清掃活動

海外現地法人の紹介

80件以上の施工実績を誇る中国の現地法人

新日本空調工程(上海)有限公司

上海事務所











施工実績の紹介



上海環球金融中心ビル

上海環球金融中心ビルは、中国 で一番高い超高層複合ビルで、上 海市のランドマークとなっていま す。このビルは地上101階建てで、 低層階が商業施設および国際会 議場、中層階がオフィス、高層階が ホテルおよび展望フロアとなってい ます。当現地法人は、中国随一の 国際会議場などの空調・衛生・電 気設備を施工しています。

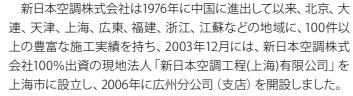
上海益力多乳品有限公司

上海ヤクルトエ 場は、上海市北西 のF1サーキット場近 くに立地し、2006 年の生産開始より 広東省を除く中国



全土へのヤクルト供給拠点になっています。更なる増産が計画 されており、当現地法人は工場内の生産・空調・衛生設備の 施工に携わり、現在製造ライン増設工事を施工しています。

ユニチャーム現場事務所



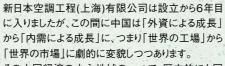
当現地法人は機電設備工事元請負2級・建築元請3級などの7 つの施工資格を取得し、総合設備会社として華東地区(上海エリ ア) 華南地区 (広州エリア) に事業を展開し、現在までに80件以 上の施工実績を有しています。

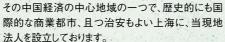
2009年6月現在で日本人社員13名、中国人社員67名、合計80名 が勤務しています。

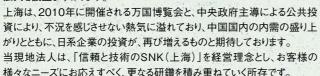
中国本土の施工実績エリア



総経理からの一言









株式会社インテグレックス 代表取締役社長

秋山 をね

慶應義塾大学経済学部卒業。 優高な基立人工学に対する。 青山学院大学大学院修了、ファイナンス修士。 大学卒業後、米系証券会社にて外国債券のトレーダーを務める。 2001年6月に、社会責任投資 (SRI) および 企業社会責任 (CSR) の推進を行う (株) インテグレックスを設立、代表取締役に就任。 現在、内閣府評価専門調査会委員、東洋経済新報社 サステナビリティ報告書賞審査員、 社会的責任投資フォーラム (SIF-Japan) 理事なども務める。

「環境設備企業」としての特徴を活かした "社会最適"の追求を期待します。

昨年、CSRレポートは、企業理念実現のための 計画、実行、検証、改善と理念の再確認という一 連の取り組み (PDCA) に対するコミットメントの 発信ともいえると書きました。本年も同じ視点か ら意見を述べたいと思います。

1. 評価したい点

冒頭に、企業理念とその核となる「空気・信頼 そして未来、見えないものを大切にします」とい うメッセージを掲げ、「トップコミットメント」で 企業理念の実現を目指すことを宣言しています。 中期経営計画 (「新日空 Target Plan 2010」) に おいても、「環境設備企業への変革」というキー ワードとともに企業理念の実現を目指すことを明 記しており、事業活動の中で理念を実現し、社会 に貢献しようとする姿勢が高く評価できます。

実際の取り組みにおいては、PDCAを回す努力 が随所に感じられます。コンプライアンス活動に おいては、毎年実施しているコンプライアンスア ンケートを基に、部門ごとに潜在的な問題点を 精査して実践的な施策に活かし、活動を改善し ています。また、コンプライアンス教育の対象を 協力会社の役職員にまで広げています。安全・品 質・環境への取り組みについても、マネジメント システムを運用し、現場の「見える化」を推進し ながら改善を図っています。環境に関しては、目 標、活動結果、社内評価、次年度の活動と目標値 が一表にまとめられており、PDCAの流れがわか りやすく把握できることが評価できます。

「身近な空調のはなし」は、空調の歴史と会社 の設立とのつながりや、「乾き空気」と「湿り空 気」の話等興味深い内容となっています。

2. 一層の努力や改善を求めたい点

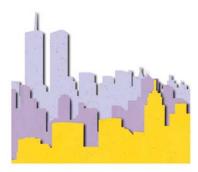
昨年のレポートに掲載されていたCSRの活動 方針に基づく活動内容と進捗状況、主な取り組 み、次年度およびそれ以降の実施目標をまとめた 「CSR活動ロードマップ」(中期実行計画)の表 の継続的な掲載が望ましいと考えます。夫々の 掲載項で表現されていますが、取り組みのPDCA を回して成果を上げていくためにも、方針→具体 的な取り組み目標→活動→自己評価→次年度の 目標という流れがわかりやすく把握できる工夫 が欲しいところです。

「ステークホルダーとの対話」については、社員 の声が挙げられているのは評価できますが、他の ステークホルダーからの評価 (チェック) に関す る記載もあると、取り組みの成果についてよりわ かりやすくなります。

環境活動については、本レポートで紹介されて いない取り組みがウェブサイト上に掲載されてい るので、読者が参照できるようにサイトのアドレ スをレポート上で紹介してはいかがでしょうか。

3. 今後への期待

昨年秋以降のグローバルな経済・社会環境の 激変の中、今後は「社会最適」な事業活動を行 う企業だけが持続可能でありえると考えます。空 気、信頼、未来という見えないものを大切にする 「環境設備企業」として、今後も、新日本空調とし ての「社会最適」を追求し続けられることを期待



人と空気と環境と



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号 浜町センタービル TEL.03-3639-2700

http://www.snk.co.jp



